

## 令和8年度 研究計画

### 1 研究主題

自分の学びを自ら選び、納得して解決に向かう児童の育成  
～個別最適な学びと協働的な学びの機能を生かして～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 今日的な教育課題から

社会の変化が加速度的に進み、将来を予測することが難しい時代となっている。デジタル技術の急速な発展により、知識や情報を容易に得られるようになった一方で、それらを適切に判断し、活用しながら課題を解決していく力の重要性は一層高まっている。

このような社会において学校教育には、知識及び技能を確実に身に付けることに加え、自ら課題を見だし、多様な他者と協働しながら考えを深め、よりよい解決へ向かう資質・能力を育成することが求められている。

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して資質・能力を育成することが示されている。また、「令和の日本型学校教育」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることにより、一人一人の可能性を最大限に引き出す授業づくりが求められている。

このことから、本校においても、教師が一方的に教える授業から、児童一人一人が学び方を主体的に選択し、多様な他者との対話を通して考えを深め、自ら納得しながら課題解決へ向かう授業への改善を進めていく必要がある。

#### (2) 学校教育目標・学校経営方針との関連

本校では、「豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」を学校教育目標に掲げ、「授業を第一に」を学校経営の柱として教育活動を推進している。

授業は、学校教育目標を具現化する最も重要な教育活動である。児童一人一人が学ぶ楽しさや達成感を味わい、自ら考え、仲間と学び合いながら理解を深める授業を積み重ねることは、「自ら学び、たくましく生きる子供」の育成につながる。

そのため、本校では、授業改善を校内研究の中核に据え、児童が主体的に学び、多様な考えに触れながら、自らの学びを深める授業づくりを推進していく。

#### (3) 本校児童の実態から

本校の児童は、学習活動に意欲的に取り組み、友達との交流や ICT 機器の活用にも前向きな姿が見られる。また、互いに考えを伝え合うことにも抵抗感は少なく、協働的な学習に取り組む素地を有している。令和8年度1学期の学力調査では、全学年・全ての実施教科において全国平均及び印西市平均を上回っており、基礎的・基本的な知識及び技能は概ね身に付いていることが分かる。

一方で、印西市が実施する「論理的に文章を読み解く力の調査」では、150字以上の記述を求められる問題になると正答率が低下する傾向が見られた。複数の情報を整理し、自分の考えを根拠をもって表現したり、説明したりすることに課題が見られる。また、学習方法や学習形態について教師から示された方法に沿って学習を進める場面が多く、自ら学習方法を選択・調整する経験は十分とはいえない。交流活動においても、自分の考えを述べることに留まり、他者の考えを踏まえて自分の考えを再構成したり、よりよい解決に向けて考えを深めたりする姿には、さらに伸ばしていく余地がある。

このような実態を踏まえ、児童一人一人が学び方を主体的に選択し、対話を通して考えを比較・再構成しながら、自ら納得して課題解決へ向かう学びを実現するためには、教師による授業改善を継続的に進めていくことが重要である。そこで、本研究では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して、児童が主体的に学び、納得して課題解決へ向かう授業づくりを推進する。

#### (4) 研究主題の設定

以上のことから、本校では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることにより、児童一人一人が自ら学び方を選択し、多様な他者との対話を通して考えを深め、納得して課題解決へ向かう姿の実現を目指し、本研究主題を設定した。

### 3 研究主題の捉え

#### (1) 「自分の学びを自ら選び」とは

教師から与えられた学びを受け身で進めるのではなく、学習課題や自分の理解の状況に応じて、学習方法や学習形態、ICT 機器などを適切に選択し、自ら学習を調整していく姿である。

#### (2) 「納得して」とは

正解を与えられることではなく、自ら根拠をもって考え、多様な他者との対話を通して考えを比較・再構成し、「自分なりに説明できる」「これでよい」と実感できる状態をいう。

#### (3) 「解決に向かう」とは

課題に対して見通しをもち、試行錯誤を重ねながら粘り強く取り組み、必要に応じて学び方を見直ししながら、よりよい解決を目指して学び続ける姿である。

### 4 研究の視点

#### 【視点1】自ら選ぶ学びを支える授業づくり

児童一人一人が、自らの学びに主体的に関わり、目的や課題に応じて学び方を選択・調整できる授業を目指す。

##### <具体的な手立て>

- ☐ 学習課題や学習方法を選択できる場面を設定する。
- ☐ 一人・ペア・グループなど、目的に応じて学習形態を工夫する。
- ☐ ICT を学習の目的に応じて効果的に活用する。
- ☐ 自己調整を促す教師の支援や教材提示を工夫する。

#### 【視点2】納得を生み出す対話を支える授業づくり

対話を通して考えを広げたり深めたりし、自分なりの根拠をもって納得できる学びを目指す。

##### <具体的な手立て>

- ☐ 考えを比較・関連付け・再構成する交流活動を設定する。
- ☐ 根拠を明確にして説明する場面を位置付ける。
- ☐ 多様な考えに触れ、自分の考えを見直す学習過程を工夫する。
- ☐ 思考を可視化し、学びを共有する活動を充実させる。

#### 【視点3】解決に向かう学びを支える授業づくり

課題に対して見通しをもち、自ら学びを振り返りながら、よりよい解決を目指して学び続ける授業を目指す。

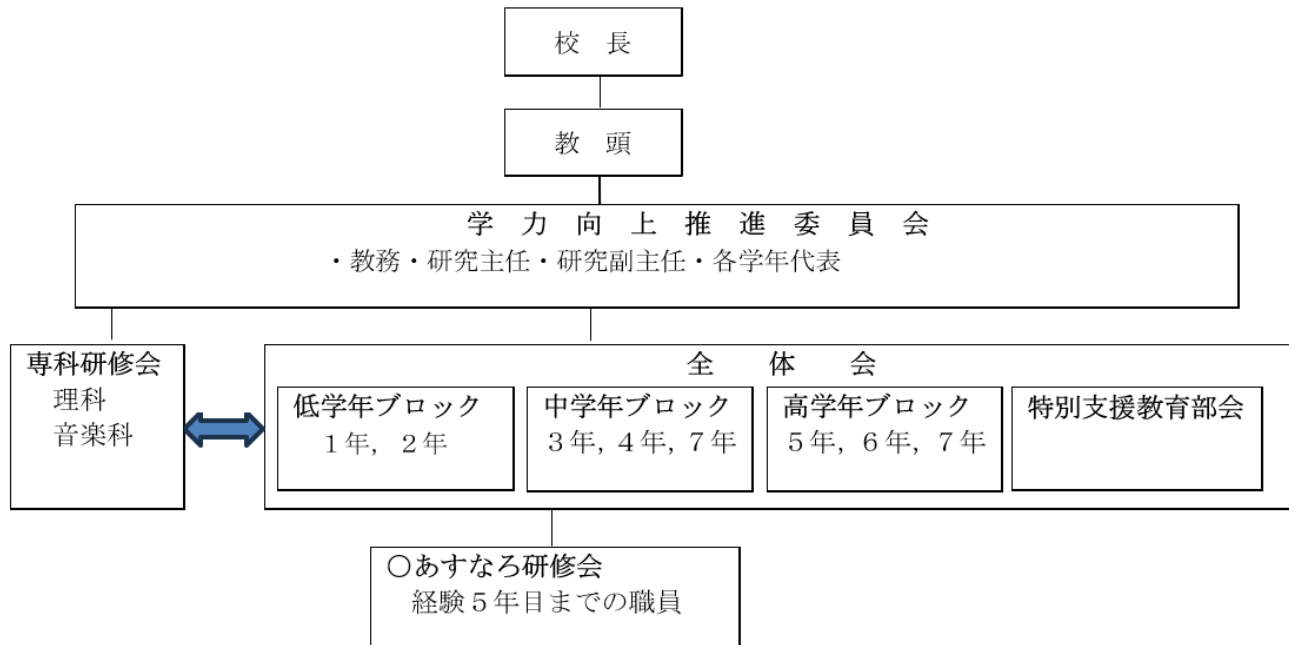
##### <具体的な手立て>

- ☐ 学習の見通しをもたせる導入を工夫する。
- ☐ 学びの過程や考えの変容を振り返る活動を充実させる。
- ☐ 次の学びにつながる自己評価を取り入れる。
- ☐ 学びを生活や他教科へ生かす視点をもたせる。

## 5 研究の進め方

- 研究授業及び授業研究会の実施
- 学年・ブロックでの教材研究及び授業改善
- 講師による指導・助言
- 研究成果と課題の共有

### 研究組織



## 6 成果の把握

研究授業や研究協議、児童の学習の様子、振り返り、各種アンケート等を通して、研究の成果と課題を整理し、授業改善に生かしていく。